開議及び閉議 日時並びに その宣告者	開議	令和7年 6月19日午前10時00分			議長	岩澤 信	
	散会	令和7年 6月19日午後 0時51分			議長	山野井 隆	
出席及び欠席 議員の氏名 出席 24名 欠席 0名 凡例 ○出席を示す △欠席を示す ⊗公務欠席を 示す	議席 番号	氏 名	出 欠 等の別	議席 番号	氏 名	出 欠 等の別	
	1	長 塚 美 雪	○	13	岩 澤 信	○	
	2	本 田 和 成	○	14	落 合 信 太 郎	○	
	3	岡 口 す み え	○	15	石 井 め ぐ み	○	
	4	古 谷 貴 子	○	16	金 澤 克 仁	○	
	5	杉 山 尊 宣	○	17	細 谷 典 男	○	
	6	佐 野 太 一	○	18	山 野 井 隆	○	
	7	海 東 一 弘	○	19	染 谷 和 博	○	
	8	根 岸 裕 美 子	○	20	佐 藤 隆 治	○	
	9	久 保 田 真 澄	○	21	入 江 洋 一	○	
	10	鈴 木 三 男	○	22	赤 羽 直 一	○	
	11	関 川 翔	○	23	遠 山 智 恵 子	○	
	12	小 堤 修	○	24	加 増 充 子	○	
職務のため議 場に出席した 議会事務局職 員の職氏名	事 務 局 長	前 野 拓		事 務 局 次 長	蛭 原 康 友		

説明のため議場に出席した者の職氏名

市		長	中	村	修
教	育	長	石	塚	康英
副	市	長	伊	藤	哲
副	市	長	黒	澤	伸行
総	務	部	長	吉	田文彦
政	策	推	進	部	長
財	政	部	長	齋	藤嘉彦
健	康	福	祉	部	長
こ	ど	も	部	長	田中英樹
ま	ち	づ	く	り	振
					興
					部
					長
建	設	部	長	彦	坂哲
都	市	整	備	部	長
教	育	部	長	助	川直美
消	防	部	長	森	川和典
会	計	管	理	者	
総	務	課	長	渡	来真一
				浅	野和生
				飯	竹永昌
				岡	田直紀
				齊	藤理昭
				土	谷靖孝

令和7年第2回取手市議会定例会議事日程（第6号）

令和7年6月19日（木）午前10時開議

- 日程第1 議案第28号 取手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
議案第29号 取手市税条例の一部を改正する条例について
-
- 日程第2 議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）
-
- 日程第3 決議案第1号 議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について
-
- 日程第4 請願第10号 取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願
-
- 日程第5 意見書案第3号 救急時の選定療養費徴収において、保育所、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状を把握するとともに運用について検証を行い、その情報を公開することを求める意見書について
意見書案第4号 消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める意見書について
-
- 日程第6 選挙第2号 茨城県南水道企業団議会の議員の補欠選挙について

会議に付した事件

- 日程第1 議案第28号 取手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
議案第29号 取手市税条例の一部を改正する条例について
-
- 日程第2 議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）
-
- 日程第3 決議案第1号 議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について
-
- 日程第4 請願第10号 取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願
-
- 日程第5 意見書案第3号 救急時の選定療養費徴収において、保育所、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状を把握するとともに運用について検証を行い、その情報を公開することを求める意見書について
意見書案第4号 消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める意見書について
-
- 日程第6 選挙第2号 茨城県南水道企業団議会の議員の補欠選挙について
-
- 追加日程 議長辞職の件
第1
-
- 追加日程 議長志願者の所信表明
第2
-
- 追加日程 選挙第3号 議長の選挙
第3
-
- 追加日程 副議長辞職の件
第4
-
- 追加日程 副議長志願者の所信表明
第5
-
- 追加日程 選挙第4号 副議長の選挙
第6

議事の経過

午前 10 時 00 分開議

○議長（岩澤 信君） ただいまの出席議員は 24 名で定足数に達しております。

これより本日の会議を開きます。

インターネット配信を御覧いただいている皆様に申し上げます。今定例会の提出議案の説明はオンラインにより事前に実施しております。市ホームページに全文記録を掲載するとともに、市議会ユーチューブサイトにも説明動画を掲載しております。また、当日の配付資料も市ホームページに掲載しておりますので、御参考にしていただければと思います。

これより本日の議事日程に入ります。

日程第 1 議案第 28 号 取手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
議案第 29 号 取手市税条例の一部を改正する条例について

○議長（岩澤 信君） 日程第 1、議案第 28 号及び議案第 29 号を一括議題といたします。付託案件について委員長の報告を求めます。

総務文教常任委員長、鈴木三男君。

〔総務文教常任委員長 鈴木三男君登壇〕

○総務文教常任委員長（鈴木三男君） 皆さん、おはようございます。総務文教常任委員会に付託されました審査の経過と結果を報告いたします。

まず初めに、議案第 28 号、取手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について、質疑・討論はなく、全員賛成で議案第 28 号は可決されました。

次に、議案第 29 号、取手市税条例の一部を改正する条例について、1 名の委員から質疑がありました。国たばこ税の見直しに伴い、地方たばこ税の見直しの詳細な説明はどの質疑に対し、「今回の改正に関しては加熱式たばこの課税方式の見直しによるもので、税率——税率についての変更はない。現在、加熱式たばこと紙巻きたばこの間に税負担の差が生じていることから、これを解消するために、国のたばこ税において課税方式の適正化を行うもので、それに伴い、地方たばこ税においても、課税の適正化の観点から課税方式を見直すこととした」との答弁がありました。さらに今回の変更で税収に変化はあるのかとの質疑に対し、「たばこ税に関しては、1,000 本当たりに対して税率が決められており、今回の市税条例の改正による税収の変化はない。ただ、健康志向の高まりや健康増進法の改正、高齢化の進展などにより、このところたばこの販売本数が年々減少している。令和 8 年度は、販売本数の減少による影響で減収になると見込んでいる」との答弁がありました。1 名の委員から反対の討論があり、賛成多数で議案第 29 号は可決されました。

以上、委員長報告とさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） 以上で委員長報告が終わりました。

質疑に先立ちまして議員各位に申し上げます。質疑は議題となっている事件について疑義をただすために行う発言であります。したがって、会議規則にありますとおり、議題外にわたる発言及び議題の範囲を超える発言は行わないよう申し上げます。なお、質疑は自分の意見を述べる場ではありません。議員各位におかれましては、十分にこれらのルールを遵守していただくことを求めます。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

討論に先立ちまして、議員各位に申し上げます。討論は、議会基本条例第 11 条にあるとおり、賛成・反対を明確にするものです。また、会議規則第 69 条に、表決には条件をつけることはできないとあります。反対の内容をとうとうと発言して、終わってみれば賛成すること、及び何々を求めて賛成・反対との討論は行わないよう厳しく注意いたします。

これから討論を行います。討論ありませんか。反対討論の方。

本田和成君。

〔2 番 本田和成君登壇〕

○2 番（本田和成君） おはようございます。日本共産党、本田和成でございます。議案第 29 号、取手市税条例の一部を改正する条例について、反対の立場で討論をいたします。今回の税条例の改正については、公示送達についてインターネット上で閲覧できる方法の規定、それから個人住民税について特定親族特別控除の創設、たばこ税の見直し、この 3 点の措置を講ずるものと認識しております。個人住民税について、特定親族特別控除の創設については、住民税の負担軽減になることから歓迎をいたします。しかし、たばこ税の部分について、今回の改定では、委員長報告にありましたとおり、たばこ税の税収には変化がありません。ただ、国のたばこ税において加熱——失礼しました。国のたばこ税において、加熱式たばこと紙巻きたばこの間の税負担の差を解消するための改正と認識しております。ただ、政府与党により閣議決定された令和 7 年度税制改革大綱において、防衛力強化に係る財源確保のための税制措置というところの中に、このたばこ税について明記されております。国たばこ税が防衛費増税の——今回の改正が、このプロセスの一環となっていることから、私たち日本共産党としては反対といたします。以上です。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。以上で討論を終わります。

これから議案第 28 号及び議案第 29 号を採決します。この採決は採決システムを用いて行います。

議員各位に申し上げます。御手元のタブレットが入室認証画面に切り替わったことを確認してください。

〔入室コードを議員が入力〕

○議長（岩澤 信君） 全員の入室を確認しました。

議案第 28 号、取手市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の

一部を改正する条例について、本案に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

[表決システムのボタンを押す]

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。全員賛成です。したがって、議案第 28 号は、委員長の報告のとおり可決されました。

議案第 29 号、取手市税条例の一部を改正する条例について、本案に対する委員長の報告は可決です。委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

[表決システムのボタンを押す]

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。賛成多数です。したがって、議案第 29 号は、委員長の報告のとおり可決されました。

日程第 2 議案第 39 号 令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）

○議長（岩澤 信君） 日程第 2、議案第 39 号、令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）を議題といたします。

付託案件について各委員長の報告を求めます。

まず、総務文教常任委員長、鈴木三男君。

[総務文教常任委員長 鈴木三男君登壇]

○総務文教常任委員長（鈴木三男君） 総務文教常任委員会に付託されました議案第 39 号、令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）の所管事項について、当委員会の審査の経過と結果を報告いたします。3名の委員から質疑がありました。ある委員から教育情報機器整備に要する経費について、現在学校で使われている回線ではどのような不具合があるかとの質疑に対して、「現行の光回線ですが、第 1 期の G I G A（ギガ）スクール構想以前、1人1台整備された児童生徒・学校校務用として1ギガの回線で契約をしていた。その後、国が推奨する第 1 期 G I G A（ギガ）スクール構想に伴い、令和 2 年度には、従来の光回線に加え、各校 1 回線追加で整備をしました。当時はこれで十分授業が行われていたが、現在、授業の中でタブレットを使用する状況が多くなり、ウェブサイトへ接続した場合、途中で途切れたり、そもそも接続がしにくい状況があると学校のほうから報告を受けている」との答弁がありました。さらに、この光回線の通信速度がアップすることにより、教育環境の向上はどのように図られるかとの質疑に対して、「市内小中学校において回線が逼迫していることから、昨年度、取手市内の一部のエリアにおいて、10ギガ回線の提供が開始されました。そこで、対象エリア内、かつ、市内で最も児童数が多い高井小学校において試験的に 10ギガ回線への切替えを実施した。当初、1ギガの回線を利用していただけから、条件が最もよいと仮定した場合の 10 倍の速度となり、試験導入後、先生方からインターネットの接続が切れなくなったと、またウェブサイトへのアクセスが早くなった等の意見をいただいております。10ギガ回線への切替えがかなり好評であったと伺っております。したがって、今回の補正予算を使い 10ギガ回線への切替えによ

り、授業の途中でインターネット接続が消えたり、ウェブサイトを開く際に時間がかかるといったことが減少し円滑に授業が進められるほか、タブレット端末が快適に使用できるようになったことで、子どもたちが自らタブレット端末を使用する意欲を損なわない効果が期待される」との答弁がありました。また、ある委員から電算OA化等に要する経費について、オンライン市役所システムの詳細はとの質疑に対し、「取手市のLINE公式アカウントに友達登録をしていただくとフルに御活用いただけるという理解でよいと思います。チャット形式、例えば公民館を予約したいといったときには、施設予約というところをタップします。そうすると、公民館だとか、何々という施設名があらわれますので、公民館を選ぶ、利用する日を選ぶ、時間帯を選ぶ、部屋を選ぶといったような形で自分の目的を達成していく。そして、支払いに関しては、クレジットカードや電子決済等をお使いであれば、窓口に行くことなくスマートフォンで支払いが完了し予約手続が完結するという流れをイメージしていただければ」との答弁がありました。討論はなく、議案第39号のうち当委員会所管事項は全員賛成で可決いたしました。

以上、委員長報告とさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） 次に、福祉厚生常任委員長、久保田真澄さん。

〔福祉厚生常任委員長 久保田真澄君登壇〕

○福祉厚生常任委員長（久保田真澄君） 福祉厚生常任委員会に付託されました議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）（所管事項）について、審査の経過と結果を報告いたします。無痛分娩費用助成事業について、3名の委員から質疑があり、ある委員から様々な出産の形を選べる昨今、少子化対策としての事業であるなら、無痛分娩だけでなく全妊婦に給付すべきではとの質疑に、「年々、無痛分娩の需要が高まっている中、どのような分娩方法を選択されても、できるだけ経済的な自己負担がなく出産できる環境を整えることを目的としており、誰でも望む分娩方法にアクセスできる環境を整えることに主眼を置いて実施するものです。妊娠・出産される全員の方を対象とする事業について、どういった事業が効果的か、国の動向や他市の取組を参考にしたい」との答弁がありました。また、ある委員から、インフォームド・コンセントがなされているかの確認方法についての質疑があり、「アンケート調査を協力いただいた全ての医療機関において、合併症の説明を含む無痛分娩に関する説明書や無痛分娩に関する同意書を取り交わしている。また、申請いただく前に事前相談を行っていて、そういった際にしっかりと確認していきたい」との答弁がありました。ある委員から、会議規則第101条の規定により、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）（所管事項）に対する修正案が提出されました。修正の内容は、無痛分娩に関する費用を全額削除するものでした。提出理由として、無痛分娩のみでなく、全てのお産に公平に助成するべきなど3点挙げられました。3名の委員から質疑があり、執行部に対する確認が2名の委員からありました。討論はなく、賛成少数で、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）（所管事項）の修正案は否決されました。

議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）（所管事項）原案について、討論はなく、1人の委員が退席されましたが、審査の結果、全員賛成で可決されまし

た。2名の委員から、議案第39号についての附帯決議案が出され、内容について検討した結果、会議規則第14条第2項の規定による委員会提出議案として本会議に提出することに決定いたしました。

○議長（岩澤 信君） 最後に、建設経済常任委員長、海東一弘君。

〔建設経済常任委員長 海東一弘君登壇〕

○建設経済常任委員長（海東一弘君） 建設経済常任委員会に付託されました議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）建設経済常任委員会所管事項につきまして、審査の経過と結果をご報告申し上げます。3名の委員より質疑がありました。質疑の内容は、取手駅前公衆トイレ設置工事について、緑地等管理に要する経費についてであります。取手駅前公衆トイレ設置工事につきましては、このたび予算計上している施設賃借料281万6,000円の内容、設計の内容や広さ、環境面や安全性、案内看板の設置や広告掲載事業、市民サービスの維持向上、既存箇所の工事、その後の利活用など、このような内容の質疑でありました。これに対しまして、「このたび予算計上している施設賃借料部分の内容は、新設されるトイレの予定箇所や工事における資材置場等を含めた土地賃借料であり、新設のほうは、バリアフリー設備など既存よりも広くする設計で、面積も100平米ほどにするなどを予定している。トイレの出入口や室内にLED照明を施し、防犯カメラや緊急時における警備会社への通報システムの設置など、環境や安全面、清掃による衛生面、今回設置のおむつ台交換は、左右が壁で区切られ、周囲から視線を遮る設計にする配慮など検討を重ねている。看板表示等についても、多言語による案内表示やネーミングライツ募集による広告事業の観点、既存箇所の利活用など、今後も検討を進めていきたい。また、適切なタイミングにて広報等において周知を図る」という内容の答弁がありました。緑地等管理に要する経費につきましては、寄附を頂いた経緯、敷地面積、石碑の設置など質疑がありました。これに対しまして、「寄附を頂いた山之坊緑地は、昭和40年代から地権者の皆様の努力により自然を残すことができた緑地であり、水と緑が豊かで、優れたこの地域を後世に残し、多くの人に知っていただきたいという地権者様の思いから、令和6年8月に市に寄附を頂いた。面積は約9,680平方メートルであり、この山之坊緑地は、市民の皆様とともに守ってほしいという地権者様の願いについて協議するなど、寄附を受け園名が変更になることに伴い、石碑の設置を考えている」という内容の答弁がありました。討論はなく、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）、建設経済常任委員会所管事項は全員賛成により可決しました。以上でございます。

○議長（岩澤 信君） 以上で委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。まず反対の方。賛成の方。

岡口すみえさん。

〔3番 岡口すみえ君登壇〕

○3番（岡口すみえ君） おはようございます。創和会、岡口すみえでございます。議案

第 39 号、令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）について、賛成の立場から討論いたします。今回の補正予算には、子育て支援、行政のデジタル化、そして市民の利便性向上に関わる重要な事業が盛り込まれております。私は特に次の 3 点を重視し本議案に賛成するものです。まず 1 点目は、無痛分娩費用への助成制度の創設についてです。無痛分娩は出産時の不安や負担を軽減し、その後の育児の良好なスタートにつながります。また、医療機関における分娩の質の向上にも寄与します。しかし、現行制度では、保険適用外で費用が全て自己負担となるため、経済的に利用を断念する方もいらっしゃいます。今回の補正では必要な経費が計上されており、これは出産・子育て環境の改善に向けた重要な一歩と評価いたします。

次に、2 点目は、市のデジタル化、DX 推進についてです。市公式 LINE 機能の拡充やオンライン市役所の導入により、市民は、時間や場所に縛られずに行政手続きが可能となります。これは子育て世帯や高齢者、働く世代にとっても大きな利便性をもたらします。私は昨年的一般質問においても、高齢者へのデジタル講習会や行政のデジタル化を要望してまいりました。今回、それが具体的に予算化されたことを高く評価いたします。今後は、運用体制の整備と市民への分かりやすい周知活動も併せて進めていただくことを強く要望いたします。

そして 3 点目は、取手駅前のバリアフリー対応公衆トイレの整備についてです。取手駅西口は、多くの市民や来訪者が利用する市の重要な玄関口です。現在の公衆トイレは老朽化しており、暗くて使いづらいとの声も多く寄せられています。今回の整備は、そうした市民の声に応えるものであり、また、高齢者や障がいのある方、小さなお子さん連れの方にとっても安心して利用できる環境を提供するものです。公共空間の整備は、周辺のにぎわいや回遊性の向上にもつながります。取手駅の顔としてふさわしいトイレ整備が求められます。もちろん、今後の維持管理や利用実態の検証も必要ですが、この事業は公共性と利便性の両面から必要な投資と判断いたします。以上、3 点にわたり申し上げました。出産・子育て支援の充実、行政のデジタル化、そしてインフラ整備を通じた市長の掲げる住み続けるほど好きになるまちづくり、これらが盛り込まれた本補正予算案に私は賛成いたします。

以上で、議案第 39 号、令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）について、賛成の立場からの討論を終わりにさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。反対の方。賛成の方。

長塚美雪さん。

〔1 番 長塚美雪君登壇〕

○1 番（長塚美雪君） 議案第 39 号、令和 7 年度取手市一般会計補正予算（第 3 号）に賛成の立場から討論いたします。今回の補正予算案には、オンライン市役所導入経費が計上されております。私は一般質問や委員会質疑で、デジタル推進について幾度となく取り上げてきました。会社員で働いていたとき、市役所は休みを取らないと行けない、時間がかかる、待つ、書くものが多い、そんな印象が強くとても遠い存在でした。子どもが小さいときにはなおさら強く思ったところです。導入予定のオンライン市役所、現在の取手市

公式LINEを用いて、いつ、どこにいても、手元で様々な申請・予約・決済が可能となるということです。総務文教常任委員会では、ほかの自治体の例を挙げておりました。放課後子どもクラブの登録において、2,608件がLINE申請であり、総申請数の93.2%との答弁がございました。これ以外の様々な申請においても同様のことが期待されます。市役所開庁時間内に出向くことが難しい市民の方にとって、オンライン市役所の導入は、利便性の向上に大きく寄与するものです。また、市民と行政をつなぐ新たなコミュニケーションツールにもなり得ます。デジタル推進を積極的に進める本市にとって、このオンライン市役所は大きな転換点ではないでしょうか。一人でも多くの市民の方が、スマホ・タブレットで完結するから最近市役所に行っていない。取手の市役所は便利と、行かずとも身近な存在に思っただけのほど、多岐にわたる機能の実装を期待し、賛成討論といたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

関川 翔君。

〔11番 関川 翔君登壇〕

○11番（関川 翔君） 会派みらい、関川 翔です。議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）に対し、賛成の立場から討論いたします。今回の補正予算は、こどもまんなか社会の実現、自治体DXの推進、そして取手駅前の利便性と安全性向上という、3つの明確な目的に基づいた編成がされており、市民生活の質の向上と持続可能なまちづくりの視点からも大いに意義ある内容と評価いたします。私からは、こどもまんなか社会の実現に向けた事業について取り上げさせていただきます。近年、少子化の進行とともに、出産・育児を取り巻く環境整備の重要性が高まっております。私が第1回の3月定例会において一般質問で要望させていただきましたが、今回計上された無痛分娩費用の助成は、安心して出産できる環境を整え、若い世代の定住促進にもつながる施策です。対象者や——対象者の要件や助成額も明確であり、様々な方法でアプローチし、周知徹底に努めると理解させていただきました。また、特定不妊治療費の助成についても、必要な費用に限定的かつ効果的に公費を投じるものであり、不妊に悩む御夫婦の心理的・経済的負担の軽減に資する施策として高く評価させていただきます。

以上、賛成討論とさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

古谷貴子さん。

〔4番 古谷貴子君登壇〕

○4番（古谷貴子君） 公明党の古谷貴子です。私のほうからは、議案第39号、令和7年度一般会計補正予算（第3号）について、賛成の立場から討論をさせていただきます。こどもまんなか社会の実現に向けたこの事業、すばらしい事業だと考えます。1つ目の無痛分娩費用助成事業1,442万3,000円について、無痛分娩に関しましては、現時点におきましていろいろな御意見があるところではありますが、様々な出産の形を選べる今日、無痛分娩を望む女性も増え、その費用の一部を助成することは少子化対策にもつながると考えております。また、特定不妊治療費助成事業242万7,000円については、妊娠を望みながらも、高額な不妊治療費による経済的な負担がたくさんあります。その治療費を軽減し、

また安心して不妊治療を受けられるような環境を整える重要な助成事業であると考えます。様々な要件はあるものの、子どもを持ちたいと願う方たちの一助となることは間違いありません。今後は少子化対策としてさらなる助成事業の拡大を望むものです。まずは、子どもを産み育てたいと願う方たちへの助成事業として、令和7年度一般会計補正予算（第3号）、こどもまんなか社会の実現に向けた事業に賛成の立場から討論をさせていただきました。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

小堤 修君。

〔12番 小堤 修君登壇〕

○12番（小堤 修君） 創和会、小堤 修でございます。私は、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）について賛成の立場から討論いたします。今回の補正予算において私が着目した事業は、こどもまんなか社会の実現に向けた事業と自治体DX化に向けた事業についてです。まず、こどもまんなか社会の実現に向けた事業の一つとして挙げられる、1,442万3,000円が計上されている無痛分娩費用助成事業についてです。この件については、本会議でも委員会でも多くの議員からたくさんの質疑等があり、補正予算（第3号）に対して委員会で付帯決議が出されるなど大変審議が深まりました。私は、結婚・妊娠・出産・子育てという一連のウェルビーイングを実現するための出産に対する一つの援助と捉えます。出産は生命の尊厳に関わる大切なことであり、出生数が年々減少傾向にある中、無痛分娩費の一部を助成して経済的負担を軽減し、安心して出産できる環境を整えようという行政の考え方は評価できるところであります。無痛分娩は最終的には妊婦さんが決めるところ——ことですが、無痛分娩が次の出産、またその次の出産につながれば、少子化対策の一助にもなると期待できるところであります。

次に、242万7,000円が計上されています特定不妊治療費助成事業についてです。子どもを授かりたいと切に願う夫婦に対し、不妊治療費の一部を助成することは、県内でも既に多くの自治体を実施している状況です。ぜひ早期に実施していただきたい事業です。いずれの事業も、取手市こども計画で掲げている妊娠から出産、子育てに至る中で、少子化の中、次世代を担う子どもたちがすくすくと育っていくことを願い、行政がサポートできる部分はサポートし、環境を整えていこうという方針に賛同いたします。

2つ目は、自治体DX化に向けた事業の一つとして、2,677万6,000円が計上されているオンライン市役所開設事業です。自治体のDX化も加速度的に進んでいく状況の中、この事業を取り入れていくことは、忙しい日々を送っている働き盛りの方、高齢でなかなか市役所まで行けない方、また、公民館で申請できる新たな方法など、オンラインを使用し用件が済むという、市民にとってはとてもありがたい事業です。

そしてもう一つ、2,780万3,000円が計上されていますGIGA（ギガ）スクール環境整備事業です。GIGA（ギガ）スクール構想は、令和2年度に整備されました。光回線の通信速度も日進月歩で進んでおり、1人1台のタブレットでの授業に関し、光回線の速度的な教育環境等をさらに整えていくことは当然であると認識します。これも、こどもまんなか社会の趣旨に合致することであり、今後、グローバル化が——グローバル社会が一

層進展していく中、国際的に活躍する若者に育ってほしいという思いから大いに期待するところです。

以上のことから、この補正予算（第3号）は非常に重要であり、これから生まれてくる子どもたちにとっても、取手市に住む老若男女に対しても、非常に有意義な事業です。つまり、この補正予算は、住み続けるほど好きになるまちづくりにつながるものと確信し、賛成の討論といたします。以上です。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。これで1回目の討論を終わります。

それでは2回目の討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。以上で討論を終わります。

これから議案第39号を採決します。この採決は採決システムを用いて行います。

議員各位に申し上げます。御手元のタブレットが採決画面に切り替わったことを確認してください。

議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）について、本案に対する各委員長の報告は可決です。各委員長の報告のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔表決システムのボタンを押す〕

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。全員賛成です。したがって、議案第39号は、各委員長の報告のとおり可決されました。

日程第3 決議案第1号 議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について

○議長（岩澤 信君） 日程第3、決議案第1号、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議についてを議題といたします。

提出者の説明を求めます。

福祉厚生常任委員長、久保田真澄さん。

〔福祉厚生常任委員長 久保田真澄君登壇〕

○福祉厚生常任委員長（久保田真澄君） 議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について、標記の付帯決議案を別紙のとおり、取手市議会会議規則第14条第2項の規定により提出する。

提出理由

少子化が深刻化する中、無痛分娩に限らず全ての出産に係る経済的支援、及び結婚・出産・子育て支援のさらなる充実を求める為、提案します。

よって、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の執行及び今後の市の施策立案に当たっては、下記事項への配慮を求める。

- 1 無痛分娩に限らず、自然分娩を含む全ての出産に係る経済的支援、及び妊婦全般を対象とした包括的支援の拡充についても検討していくこと。
- 2 インフォームドコンセントについて、医療機関もさることながら、妊婦にも正確な情報を得たうえで、自己決定できているかの確認方法を確立すること。
- 3 少子化が深刻化する中、他自治体における先進的な取組や社会的要請を踏まえ、結婚・出産・子育て支援のさらなる充実を図るとともに、必要な財政措置についても適切に講じること。

以上、決議する。

よろしく願いいたします。

○議長（岩澤 信君） 以上で、提出者の説明が終わりました。

これから質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

ただいま議題となっております決議案第1号は、委員会提出議案のため、会議規則第37条第2項の規定により委員会に付託いたしません。

これから討論を行います。討論はありませんか。反対討論。

細谷典男君。

〔17番 細谷典男君登壇〕

○17番（細谷典男君） 細谷です。議案第39号、補正予算について、今回、福祉厚生常任委員会、久保田委員長から、無痛分娩に関する付帯決議が出されました。先ほどの39号に対する賛成討論をお聞きしてまして、無痛分娩に触れた方3人いらっしゃいましたんですね。皆さん積極的な賛成論で、私も同意しております。ところがこの付帯決議を見ると、無痛分娩、これ新規事業ですから、やってみなくちゃ分からない——やってみなくちゃ分からないと言っては、これまたまずいんですけども、賛成討論を見た方は本当に期待する声だし、私はそういう声の中で、今回この新規事業が生まれてきたというように思うわけです。まずはこれを——この新規事業をいかに育てていくのかと、そして、これが少子化対策に結ぶものにしていくのかということが課題だと思いますので、そういう点から見ると、付帯決議が逆の方向に行ってるというふうに思います。したがって、反対したいと。

2つ目と3つ目のことは、あえて言わなくても、決議として出さなくても、これは当然、執行部としては心して進めていただけたらというふうに思いますので、付帯決議に反対するという討論といたします。以上です。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。賛成の方。

本田和成君。

〔2番 本田和成君登壇〕

○2番（本田和成君） 日本共産党、本田和成でございます。議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について、賛成の立場で討論いたします。無痛分娩費用助成に要する経費についての付帯決議になります。出産に対する価値観や希

望する出産方法、これはやっぱり時代とともに変化をしております。このたびの無痛分娩への費用助成については、出産方法の選択肢が広がるという観点において私も評価をしております。ただ、様々な質疑等々ございましたとおり、分娩を限定した支援では公平性が損なわれていること。それから無痛分娩をいたずらに促進してしまうのではないかという懸念。こういったものがございました。この付帯決議については、その課題点を明確にし、挙げられた3つの項目は必要かつ重要なものだと私は思います。特に2の項目、インフォームド・コンセントについてです。2の項目は、無痛分娩費用助成を実施するに当たり、非常に重要だと私は考えております。無痛分娩はリスクを伴う医療行為であり、行政として支援するに当たっては、支援を受ける妊婦の自己決定のプロセスを注視しなければなりません。インフォームド・コンセントとは、医師の説明を聞いて、そして同意書に署名するというものではありません。実際に医療の現場でどのようにインフォームド・コンセントが行われたか、この部分が非常に重要になります。医師はリスクも含め、最悪の事態も説明し、その医療行為を受ける側がリスクも含め十分に理解し、自己決定に至るまでのプロセス、これがインフォームド・コンセントです。市においては、無痛分娩費用助成を受ける妊婦が、どのようにインフォームド・コンセントが行われたのか、この自己決定プロセスを丁寧に確認をする必要があります。また、いたずらに無痛分娩が促進されないように努めることも必要だと私は思います。そして、全ての妊婦さんが、どのような出産方法でも安心して出産ができる環境整備の構築、少子化が進む中、結婚それから子育てへの支援のさらなる充実を図るために、この付帯決議に対して賛成といたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。反対の方。賛成の方。

根岸裕美子さん。

〔8番 根岸裕美子君登壇〕

○8番（根岸裕美子君） とりで生活者ネットワーク、根岸裕美子でございます。決議案第1号、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について賛成討論いたします。令和7年3月末に策定した、こども計画に沿った具体策の第1弾として、議案第39号、令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）に無痛分娩費用助成制度が提案されました。この補正予算を受け取ったとき、まず思ったのは、なぜ無痛分娩のみに助成を行うのかということでした。全ての出産方法には、それぞれのメリット・デメリットがあり、妊婦自身が十分な情報を得た上で、自身にとって最適な方法を選択できることが何よりも重要です。また、少子化対策としつつも、出生数増加には直接寄与しないこと。無痛分娩そのものを否定するものではございませんが、日本の無痛分娩の実施の現状には多くの課題があること。そういった理由から私は福祉厚生常任委員会にて、議案第39号補正予算に対し修正案を提案いたしました。結果は否決だったため、その後の原案の採決には賛成・反対の決定ができかねたため、採決に際し離席をいたしました。しかし、その後、委員会内で協議し委員全員が一致したこの決議案を提案することができました。そして、今日の本議会にて、議案39号に賛成をしたという経緯です。

重要なのは、「1. 無痛分娩に限らず、自然分娩を含む全ての出産に係る経済的支援、及び妊婦全般を対象とした包括的支援の充実——拡充についても検討していくこと」です

が、「2. インフォームドコンセントについて、医療機関もさることながら、妊婦にも正確な情報を得たうえで、自己決定できているかの確認方法を確立すること」——これが非常に重要だと考えます。令和7年10月に同じく無痛分娩費用助成を開始する東京都は、安全確保のために対象医療機関を絞ると同時に、医療機関への体制整備・助成事業を同時に行い、麻酔科医、産科医、助産師、看護師などの人員体制整備を進めています。一方、同じ無痛分娩費用助成制度を実施する本市は、医療機関への指導・助言をする立場になく、体制整備に関与することは困難です。だからこそ、妊婦がしっかりと医師と情報を共有し、単なる同意書のサインや保管ということにとどまらず、妊婦本人が納得し自己決定できているかどうか確認することを必ず丁寧に行っていただきたいと考えます。そして今後、「3. 少子化が深刻化する中、他自治体における先進的な取組や社会的要請を踏まえ、結婚・出産・子育て支援のさらなる拡充を図るとともに、必要な財政措置についても適切に講じること」をより具体的に進めていただきたく賛成討論といたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。——討論なしと認めます。これで1回目の討論を終わります。

それでは2回目の討論を行います。討論はありませんか。

金澤克仁君。

[16番 金澤克仁君登壇]

○16番（金澤克仁君） 創和会の金澤でございます。付帯決議に対して細谷議員が反対討論をされてましたので、それに反論する形で賛成の立場で討論させていただきます。まず、細谷議員の反対討論の中で、2つ目、3つ目はあえて付帯決議しなくても、執行部は当然考えてやるでしょうということに対して反論いたします。我々、細谷議員ももちろん、福祉厚生常任委員会、ユーチューブやら議事録を御覧になってると思うんですけども、2つ目、3つ目——この付帯決議を議論する中で相当、委員間で討議をしてまいりました。そんな中で、2つ目の「インフォームドコンセントについて、医療機関もさることながら、妊婦にも正確な情報を得たうえで、自己決定できているかの確認方法を確立すること」、これを盛り込むに当たって、実際の議案質疑の執行部の答弁も確認した上で委員間で討議をしてこれを盛り込んだ結果があります。こういったことをしっかりと執行部としてもやってもらいたいという内容でございます。3つ目、「少子化が深刻化する中、他自治体における先進的な取組や社会的要請を踏まえ、結婚・出産・子育て支援のさらなる充実を図るとともに、必要な財政措置についても適切に講じること」というところでも、議会からこういった付帯決議をすることによって、よりしっかりと執行部として検討していただくことを求めるということで、こういった決議に至りました。

以上、細谷議員の反対討論に対する反論で、賛成討論とさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

細谷典男君。

[17番 細谷典男君登壇]

○17番（細谷典男君） 細谷でございます。根岸議員、そして本田議員の付帯決議賛成討論に反対の立場で討論いたします。佐野——本田議員が明確に、論点は分娩を限定する

ようなものだというようなことで、付帯決議となっております。この点については当然限定した事業なわけですが、もともとがですね。こういう無痛分娩ということを選択すれば、より妊娠・出産、安心して、あるいは頑張ってみようというようになる可能性があるということで新規事業として出されたわけですから、これはもう分娩を限定した事業、これは当然のことだというように思います。それとあと3回目の討論でやればいいんですけども、あえて金澤議員のほうからも御意見ありました。多方面の視野になりますので、なかなか難しいところあるんですけども、インフォームド・コンセント、あるいは、この自己決定を確保するというようなことが本田議員や根岸議員からもございました。これは——私はこれは必要だというように思っています。ただこれは決議で、そして執行部の首根っこを捕まえてこれをやれよというような内容ではないのではないかと。これはもう話し合いの中で——決議というようなことではなく、日頃の意思疎通の中でこういうことも重要ですよ。こういうお話をすればいいような——決議として、あえて議会として行うようなことではないのではないかとということで、私は決議に載せる必要はないのではないかとことを申し上げたわけです。

で、自己決定を確認するとかというようにお話ありましたけども、自己決定は自己決定で、この決定に行政が介入するというようなことがあっては逆にならないだろうというように思うんです。自己決定を行う条件というのは、それぞれの人の個人差でいろいろな認識があるかと思うんですが、自己決定ということに対して行政が確認するとか、チェックするとか、こういうことは私はあってはならないというように思います。

もう一つ、この無痛分娩について、これは本田議員ですか、いたずらに促進するような事業だということをおっしゃいました。「いたずらに」ということはどういうことなのか。AIで調べさせていただきましたところ、無駄に役に立たないようなことを進めるというのは「いたずらに」ということだと思いますので、全く今回の新規事業にはこの表現は当たらないということをおっしゃって、私の討論といたします。以上です。

どうぞ討論してください。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。これで2回目の討論を終わります。

それでは3回目の討論を行います。討論はありませんか。

本田和成君。

〔2番 本田和成君登壇〕

○2番（本田和成君） 本田です。細谷議員の反対討論に反対をさせていただきたいなと思います。——反論ですね。失礼しました。まず、無痛分娩に限定したということなんですけど、私が申し上げたのは、無痛分娩に限定された支援ではなくて、やっぱり公平にほかの分娩、妊婦さんにもちゃんとその支援をするべきだと、そういった趣旨で申し上げております。その辺はちょっと確認をさせていただきたいなと思います。

それと、そもそもインフォームド・コンセントということがどのようにされてるか、この意味がちゃんと分かっているかどうかということが、非常にこれ重要だと私は思います。

インフォームド・コンセント——私申し上げましたけども、医師が説明をして、そこで患者が、はいそうですねって言って同意をするってことではないんです。もう一度繰り返させていただきますけども、インフォームド・コンセントというのは、医師は、リスクも含めて最悪の事態もそういったことがあるよということをしかり説明する義務があるんです。その医療行為を受けるかどうかというのは、本人の意思によるものです。受けるか受けないか、そういったリスクもある、メリットだけを伝えるというのは、これインフォームド・コンセントではないんです。リスクも含めた上で、その上でどういうふうに自分が考えるのか。この同意を得ること、このプロセスというのがインフォームド・コンセントなんです。まずこれを前提に考えていただきたいと思います。

そして、医療機関においてどのようなインフォームド・コンセントが行われているか。ここについては、医療機関、もしくは医師によっては非常に差があると、私はそのように思っております。というのは、私、皆さん御存じのとおり、様々、子どもの関係とかで、病院、知ってる医師もたくさんおります。それぞれのインフォームド・コンセントの方法は違います。どのように説明するか、これは最悪の事態を想定したインフォームド・コンセントをする医師もいれば、大丈夫だよというインフォームド・コンセントをする方もいらっしゃいます。そういった意味で、自己決定に当たるというプロセスにおいて、このリスクがある無痛分娩について、それがちゃんと理解された上でやるのか、そこが非常に重要だと私は思っています。「いたずらに」ということで細谷議員がおっしゃったとおり、「無駄に」ということです。つまり、これは表現は、日本語ですから様々な意味がございましてけども、やっぱりこの補助があることによって、本来やらなかったと、やる必要がなかったと思ってる方も、その補助があることによって必要以上にこれが促進されるってことは、私は望ましくないと思います。分娩に関しては、これ通常分娩というんですかね、普通の分娩というのが最も望ましいというのは、これは産婦人科の学会とかでもこのように言われております。あくまでもこの無痛分娩というのは医療行為なんです。そこをどのように捉えるかということ、自己決定のプロセス、ここもしっかりと踏まえた上で、今行政がこれをやると、支援をしますということであれば、やっぱりここについて、行政はある程度の責任が生じるんじゃないかと私は思っています。そういった意味で反論とさせていただきます。

〔「御理解させていただきました」と呼ぶ者あり〕

〔笑う者あり〕

○2番（本田和成君） 細谷議員の反対に対して反論いたします。

○議長（岩澤 信君） 反論の討論はありませんか。

細谷典男君。

〔17番 細谷典男君登壇〕

○17番（細谷典男君） 細谷です。3回目になります。本田議員の討論に反対の立場で討論いたします。よくお聞きしていました。この付帯決議は、無痛分娩という事業は認めた上で、幾つかの条件を出したものだというふうに思っていたわけですけども、本田議員の討論を聞いて、無痛分娩そのものに反対してる、危険視してるというふうにお聞きいた

しました。それだと、あまり話し合うような余地がなくなってくるんですけども、インフォームド・コンセントのリスクを言わないとか、メリットだけしか言わない。しかし、いろいろなお医者さんによって違いがあるとかというようなことですね。そして、自己決定に関して、行政もある程度責任があるのではないかと、こういう言い方です。こういう議論ですと、かみ合わないということになってまいります。私は、自己決定はあくまでも自己決定で、ここに行政が口を挟むというようなことは逆にやるべきではないという立場です。そして、自己決定を行うとする条件は、いろいろ整えておかなければならないというように思いますけども。そして、本田議員、明確に無痛分娩は無駄だということにおっしゃいました。これでは議論にはならないということをお願いして終わりたいと思います。以上です。私は無痛分娩は意味のあることだというように思いますので、それは申し上げて反論としたいというように思います。以上です。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

遠山智恵子さん。——遠山さん、誰の誰に対しての討論……。

〔23番 遠山智恵子君登壇〕

○23番（遠山智恵子君） 日本共産党、遠山智恵子です。もちろん細谷議員に対する、今現在3回目の討論が終わったね、じゃあ2回目、3回目合わせてですよ。さっきも——さっきも言ってたでしょ、3回目でやるべきなんだけどここで一緒にやりますって。

○議長（岩澤 信君） 遠山さん、細谷さんの反対討論——2回目の討論に対する反対討論。

○23番（遠山智恵子君） ということで反論させていただきます。とにかく委員会では相当いろんな議論されまして、執行部も交えていろいろ意見交換できました。とても充実していました。本来、結婚・出産、そして子育て支援のために、私ども委員長、副委員長を中心に委員会ではいろいろな議論をしたところなんです。結果、やっぱり大事な出産のときの無痛分娩に対する補助事業が始まるということでは、じゃあどうしようかというときに、私たち議員——議会として、委員会のメンバーとしては取りあえず、この付帯決議案を出そうということで全員一致でまとめたところなんです。その中で今、本田議員からの発言とか、根岸議員の発言を取り上げながら、2回目・3回目と細谷議員から、無痛分娩に反対ではないかというような意見も出されてきました。そこは違うんだよということで、あくまでも心配。それで、ほかの議員からも全国的ないろいろなリスクを負った件だとか、身近な私の娘の意見だとかというようないろいろな意見も出されまして、結果的に付帯決議。で、細谷議員からも再三、議会として、執行部はちゃんとやることになってんだから、こういうのは不具合だというような意見も出されましたけれども、あくまでも私たち議会として、よりよい補助事業になるためにこの付帯決議があるんだということを認識していただきたいということで、反論——ということにします。以上です。最後よかった。

〔「全然求めてないよ」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。これで3回目の討論を終わります。以上で

討論を終わります。

これから決議案第1号を採決します。採決は採決システムを用いて行います。

議員各位に申し上げます。御手元のタブレットが採決画面に切り替わったことを確認してください。

決議案第1号、議案第39号 令和7年度取手市一般会計補正予算（第3号）の付帯決議について、原案のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔表決システムのボタンを押す〕

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。賛成多数です。したがって、決議案第1号は原案のとおり可決されました。

日程第4 請願第10号 取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願

○議長（岩澤 信君） 日程第4、請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願を議題といたします。

ここで報告いたします。請願第10号については、本日までに追加署名が提出され、代表者外173名となりました。

付託事件について委員長の報告を求めます。

建設経済常任委員長、海東一弘君。

〔建設経済常任委員長 海東一弘君登壇〕

○建設経済常任委員長（海東一弘君） 建設経済常任委員会に付託されました請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期実現を——失礼しました。早期整備を求める請願につきまして、審査の経過と結果をご報告申し上げます。請願提出者より、議会基本条例第5条第3項の規定による発言があり、3名の委員より、請願提出者に対する質疑がありました。ある委員からは、請願事項に「早期」とありますが、その早期という意味合いはどのようなものですかという内容の質疑があり、これに対しまして、「今すぐということや、何月何日までにとということではありません。15年前に議会が採択していて、もう一度皆さんに注意喚起という、そのような意味です」という内容の答弁がありました。またある委員からは、橋上——自由通路ができたらしどのように変わるかなどイメージをお持ちですかという内容の質疑があり、これに対しまして、「取手駅の駅前は普通の駅前と違って、すり鉢状の下みたいなどころがあり、その狭い地域が一体化されてなく、東口からの回遊性もないため、非常にデメリットであると考えています。このデメリットを変えていくために、この東西自由通路が私は必要だと思っています」という内容の答弁がありました。ある委員から、以前、反対を掲げていた方々への請願者の調査についてという内容の質疑があり、これに対しまして、「私も一番懸念していたのはそのような方々でしたが、きちんとお話をして署名を頂き、ぜひ進めてほしいとの声をいただきました」という内容の答弁がありました。また、取手を活性化させにぎわいをつくっていくと

いうことになれば、回遊性は必要で、再開発に参加しない人たちの協力を得て、ペデストリアンデッキの延伸や、当初はA街区を空中回廊で全部結ぶというような案があったと思いますが、このような点についてどのようにお考えですかという内容の質疑があり、これに対しまして、「西口再開発に参加する地権者も、参加しない地権者も、みんなで力を合わせて取手の駅前のにぎわいを戻そうと。にぎわいをつくるのは、再開発事業だけではなく、それをやめた地権者も力を合わせて、この駅前をみんなでよくしていこうということが必要です。地下通路だけではなく、橋上化することにより、取手の場合は上も下も回遊性ができます。この点は、ほかの駅に対してもメリットが強いと思っています」という内容の答弁がありました。1名の委員より反対討論があり、請願第10号は賛成多数により採択することに決定しました。以上でございます。

○議長（岩澤 信君） 以上で、委員長報告が終わりました。

これから委員長報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 質疑なしと認めます。これで質疑を終わります。

これから討論を行います。討論はありませんか。まず反対討論の方。

加増充子さん。

〔24番 加増充子君登壇〕

○24番（加増充子君） 加増充子です。請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願に反対討論をいたします。取手駅に東西自由通路が浮上——東西自由通路整備計画が浮上してきたのは2005年。その後、市長が藤井市長に代わり、東西自由通路だけでなく橋上駅舎と一体だと過大な計画が出されました。その計画では東口改札の閉鎖が含まれていました。2007年3月議会に出された資料では、自由通路だけで事業費17億1,200万円、橋上駅舎——これはJRの試算ですが事業費18億円、合わせると総事業費35億1,200万円と示されました。私たちは市民の皆さんと、取手駅に2本目の通路建設より、東口改札構内にエレベーター、エスカレーターを設置をと中止を求めてきた経緯があります。また繰り返し、国交省やJR東京支社へ出向き、早急なバリアフリー化を求めてきました。国のガイドラインでは、高齢者、障がい者が安全に無理なく移動でき、可能な限り最短で、特に線路によって地域が分断される場合などは、各方面の主要出入口からバリアフリー経路を確保することが望ましいと示されています。取手駅東口構内へのバリアフリー化は不可欠です。2015年8月31日付の取手市とJRとの調査設計施工協定書の目的は、取手駅における2ルート目のバリアフリー化整備促進とありました。そして、東口構内バリアフリー整備は4つの案が示されました。ところが、2019年3月——令和元年ですが、JRと取手市は、東口改札から千代田線ホームに上がるエレベーター設置と、千代田線を北側に歩き西口へ接続するエレベーターとホームドアの設置で合意しました。その内容は、1日のうち僅かな限られた時間帯のみ運行される千代田線ホーム、最も利用頻度の低いホームへのエレベーター、ホームドア設置でした。そのことが東口構内のバリアフリー化を困難にしてきました。全く障がい者や高齢者など利用者のことを考えていない、バリアフリーそのものへの理解が欠落しているなど、多くの市民、利用者か

ら批判が広がるのは当然でした。まさに前市政の失政でした。バリアフリーは誰も——バリアフリー化は誰もが願うことであり、東西自由通路、その一助となることは十分承知しています。真にバリアフリーを願うならば、可能な限り平らに、そして近くにとというバリアフリーの基本の立場に立って実施されるべきものであることは言うまでもありません。東西の回遊性を求めるならば、市民合意に基づく西口駅前整備と東口商店の活性化策など、駅周辺ににぎわいを回復させるパッケージの政策と計画を確立すること。今、既にある地下自由通路をもっときれいに明るく使いやすく整備すること——整備を行うこと、それが先決ではないでしょうか。取手市は、駅前ににぎわいをつくるとし、これまで西口駅前区画整理事業及び、破綻寸前のA街区再開発に巨額の税金を投入し、東口構内の真に必要なとされるバリアフリー整備を先送りされてきました。今、鉄道及び関連施設のバリアフリー整備を行うならば、東口構内への必要なバリアフリーの実現です。市は、そのことに最大限の努力を尽くすこと、鉄道事業者の責任においてそれを具体的に推進することを求め、JRとの協議を再開することだと考えます。東西自由通路の整備を行うとなれば、多少の国の補助金があるとしても、鉄道事業者には財政負担はなく、全てを公共財源で賄う事業となり、失敗続きの西口開発の財政負担に加え、現在の取手市にとって福祉——市民福祉に関わる財源確保を一層困難にする可能性があることから、東西自由通路整備に反対の討論といたします。

○議長（岩澤 信君） 次に賛成討論の方。

佐野太一君。

〔6番 佐野太一君登壇〕

○6番（佐野太一君） 佐野太一です。請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願について、賛成の立場から討論を行います。取手駅は、取手市の玄関口であり、交通と交流の中心を担う重要な拠点です。本請願で求められている東西自由通路の整備は、市民生活の利便性を高めるのみならず、駅周辺のまちづくりを前進させる上で不可欠な公共インフラであります。現在の駅構造では、西口と東口が十分に連結されておらず、日常的な移動に不便を来しているほか、特に高齢者、障がい者、子育て世帯にとっては、安全性、バリアフリー性の面で大きな課題を残しており、整備によって改善されると考えます。また、自由通路の整備は、通勤・通学・観光などの面でも多くの市民、来訪者に恩恵をもたらすとともに、東口からの関東鉄道常総線へのアクセス性を高め、鉄道ネットワーク全体の活用にもつながります。加えて、取手駅周辺のエリアマネジメントの観点からも、西口再開発事業に参加されない地権者の方々の協力は必要不可欠であり、まちづくりへの参画を促す後押しとしても、この東西自由通路は極めて重要な役割を持つと考えます。東口と西口の動線を結び、人の流れ、まちの価値を高めることによって、再開発の意義がより広く共有され、市民の誰にとっても使いやすいものであるべきという観点からも、東西自由通路の整備は喫緊の課題であり、願いです。市民の利便性を向上と——市民の利便性の向上と将来を見据えた都市構造の再設計、そして、全ての関係者が協力しやすいまちづくり環境を整えるという視点からも、東西自由通路の整備は取手のまちにとって必然であり、西口・東口からそれぞれ反対口へ移動方法が分からず困っている方か

ら移動方法を尋ねられるたびに、東西自由通路があれば、と考えたのは私だけではないと思います。市民の切実な声に基づき、また将来を見据えたまちの在り方として、本請願の趣旨に賛同し、賛成の討論といたします。

○議長（岩澤 信君） 次に、反対討論の方。賛成討論の方。

岡口すみえさん。

〔3番 岡口すみえ君登壇〕

○3番（岡口すみえ君） 創和会、岡口すみえでございます。議案第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期——請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願について、賛成の立場から討論いたします。先ほど佐野議員おっしゃいましたが、重なる部分もありますが述べさせていただきます。まず、取手駅は市の玄関口であり、また県南地域の交通結節点として重要な役割を担っております。しかしながら現状では、駅の構造的な理由により東西の行き来が非常に不便となっており、市民や通勤・通学者、さらには来訪者にとっても大きな障害となっております。特に現在の地下通路は、バリアフリーの観点からも課題が多く、高齢者や障がいのある方にとっては、移動に大きな負担となっております。こうした状況は、市の都市機能として見過ごすことはできないものです。また、常磐線の主要駅の中で橋上自由通路が未整備なのは、もはや取手駅のみであります。取手市の都市としての魅力や利便性を損なう要因ともなっております。取手駅西口では、現在、駅前広場の整備など再開発が進んでおりますが、それを真に生かすためにも、東口との一体的な連携は欠かせません。この橋上自由通路の整備は、単なる利便性の向上にとどまらず、東西の分断を解消し、まちの回遊性や交流人口の拡大、さらには地域経済の活性化にもつながるものです。市民生活の質の向上、そして、まちの未来を見据えたまちづくりにおいて極めて重要な投資であると確信いたします。以上の理由から私は、本請願の趣旨に強く賛同し、今後のまちづくりにおいても、取手駅を中心とした真の東西一体の都市構造を目指すべきだと考えます。市民の声を丁寧に受け止め、具体的な整備に向けた議論と取組が今後進むことを強く望みつつ、私の賛成討論といたします。

○議長（岩澤 信君） 次に反対討論の方。賛成討論の方。

根岸裕美子さん。

〔8番 根岸裕美子君登壇〕

○8番（根岸裕美子君） 根岸裕美子です。請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願について賛成の立場で討論いたします。今や常磐線の多くの駅は改札を出ると、西口・東口、あるいは北口・南口と2方向に分かれているのが一般的なもので、取手駅の改札の——改札口の構造は利用者——利用に慣れていない方にとって本当に分かりづらいものになっています。東西自由通路整備は、駅利用者にとっても、地域住民にとっても長年期待されてきたことでございます。請願趣旨にもあるとおり、駅周辺の利便性と回遊性を向上させるためにも必要不可欠であることから賛成といたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。これで1回目の討論を終わります。

それでは2回目の討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。以上で討論を終わります。

これから、請願第10号を採決します。この採決は採決システムを用いて行います。

議員各位に申し上げます。御手元のタブレットが採決画面に切り替わったことを確認してください。

請願第10号、取手駅東西自由通路（橋上通路）の早期整備を求める請願について、本請願に対する委員長の報告は採択です。委員長の報告のとおり採択することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔表決システムのボタンを押す〕

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。賛成多数です。したがって、請願第10号は採択することに決定しました。

お諮りいたします。ただいま採択された請願第10号については、執行機関に送付し、その処理経過と結果を報告する——報告を求めることにしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 異議なしと認め、そのように決定しました。

日程第5 意見書案 救急時の選定療養費徴収において、保育所、幼稚園、小
第 3 号 中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状を把握
するとともに運用について検証を行い、その情報を公開
することを求める意見書について

意見書案 消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める
第 4 号 意見書について

○議長（岩澤 信君） 日程第5、意見書案第3号及び意見書案第4号を一括議題といたします。本件については、6月12日に提出者説明、質疑まで終結しています。

これから討論を行います。討論はありますか。反対討論の方。

鈴木三男君。

〔10番 鈴木三男君登壇〕

○10番（鈴木三男君） 創和会、鈴木三男です。私は、意見書案第4号、消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止に対する意見書について、反対の立場から討論させていただきます。確かに長引く物価高、特に米価高騰により国民の暮らしを直撃しており、さらにアメリカの関税措置によって先々の経済状況も不透明感が否めません。しかし消費税は、少子高齢化が進む我が国において、年金、医療費、介護、少子対策の財源として使われております。それに加えて、地方消費税は、県・市町村の社会保障政策全般に使われております。消費税の税収は、全体でおおよそ31兆円と言われ、そのうち4割が地方の財源として使われております。残るおおよそ20兆円が国が社会保障に充てております。消費税を5%に引き下げれば、おおよそ15兆円の減収が見込まれると予想されております。

この減収分を大企業や富裕層への増税で賄えるとの主張ですが、大企業への増税は、大企業の海外への移転、産業の空洞化を招き、雇用を喪失し企業の賃上げや経済成長を阻害し、日本経済に大きな影響が出てきます。また、インボイス制度は令和5年10月からスタートし、事業者の方が消費税を正確に納めていただけるように、消費税の金額等を書いた請求書、領収書等、インボイスを基に計算する仕組みです。制度として定着してきており、今廃止ということになれば、事業者をはじめ事務を担当する現場では相当混乱が予想されます。物価高対策をやるのであれば、別の対策を検討すればよいと思います。以上のことから、この意見書案第4号に反対討論をさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） 次に、賛成討論の方。賛成の方。

遠山智恵子さん。

〔23番 遠山智恵子君登壇〕

○23番（遠山智恵子君） 日本共産党、遠山智恵子です。意見書案第4号、消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める意見書について、賛成討論を行います。物価高騰が止まりません。今こそ消費税減税を実現することで、国民の暮らしを守り、この際、税財政の転換へ向けて意見書を国に、皆さんと御一緒に届けていきたいと思っております。そもそも本格的な物価高騰が始まったのは、2022年の異常な円安で輸入品価格が高騰したのが契機であり、物価上昇率では21年4月が底になっていたため、丸4年が経過しております。政府は物価対策として、ガソリンや電気代への補助、低所得者への給付金、喫緊の課題であった備蓄米の放出など、個別の対策は行ってきましたが、不十分な上に、今や世論調査でも消費税減税を求める声が多数であり、国会の中でも与野党を問わず、そうした減税を求める意見が出ている状況となっております。物価対策を考えると、消費税減税は避けて通れません。ましてや消費税を5%に引き下げれば、複数税率がなくなるのでインボイスも要らなくなります。また、地方自治体の消費税の地方分の国からの譲与税が減ったとしても、それ以上に自治体事業の歳出が減ることの効果が大きく、当市にとっても財政上少なくない効果となります。消費税減税に対する財源については、意見書案に示しているように、税の専門家や大企業や富裕層を優遇する不公平な税制を正せば、消費税を廃止できる分の財源は生まれると既に試算されております。大事なのは所得の再配分を強め、本来の——今、再配分というのが違いました。もとい、所得の再配分を強め、本来の税の在り方、原則どおり行うべきと考えます。意見書にあります、1. 消費税の税率を5%に引き下げること。2点目として、インボイス制度を廃止すること。この声を取手市議会から国に届けたいと思い、皆さんの賛同を呼びかけて討論いたします。以上です。

○議長（岩澤 信君） 次に、反対討論の方。

佐野太一君。

〔6番 佐野太一君登壇〕

○6番（佐野太一君） 佐野太一です。意見書案第4号、消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める意見書に対し、反対の立場から討論いたします。先ほど鈴木議員からも討論ありましたけれども、私も同様の点があると思いますが、討論させていただきます。まず意見書が取り上げているように、長引く物価高騰は市民生活を直撃しており、

日々の買物のたびに、家計のやり繰りに頭を悩ませる方々が増えている現状や、電気・ガス・水道といった生活インフラにかかる費用の上昇に加え、主食であるお米までもが値上がりしているという事実は深刻な問題であり、政治として何らかの支援や緩和策が必要であることは間違いありません。同様に、インボイス制度の導入によって、特に小規模事業者やフリーランス、芸術・文化活動に携わる方々の不安が高まっていることも、私のもとに届いております。制度の開始に際しては、十分な説明や支援が行き届かなかったこともあり、現場で混乱が生じていることも事実として受け止めています。しかしながら、本意見書に記された、消費税率を5%に引き下げること、インボイス制度を廃止することという2つの提案については、現実の制度の運営や財政の持続可能性と照らし合わせたとき、地方議会として国に対して要望する内容としては極めて慎重な対応が求められると考えます。消費税は、社会保障の安定財源として位置づけられており、税率を5%に下げた場合に、年に約15兆円規模の税収が減少すると試算されており、その影響は極めて大きいものです。もし減税を実施するならば、それに代わる財源をどう確保するのか、公平で持続可能な税制をどう構築するのか、そうした制度設計の議論なしに、単に引下げを求めるといった意見書を出すことには、地方議会としての責任を果たしているとは言えないのではないのでしょうか。またインボイス制度についても、制度の廃止を求める前に、まず制度の中でどのような支援策が講じられているか、どこに改善の余地があるかを丁寧に検討すべきです。課税の公平性や取引の透明性を目的とする制度である以上、単に負担があるから廃止を求めるということだけではなく、制度の趣旨や社会的意義を無視することにもなりかねません。意見書の背景には、市民の生活を何とか支えたいという思いが込められていることは間違いありませんが、地方議会として国に求める内容は、共感だけではなく、制度や——制度全体を見通した慎重な視点と実現可能性を伴う提案でなければならないと私は考えます。以上の理由から反対の討論といたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。賛成討論の方。

本田和成君。

〔2番 本田和成君登壇〕

○2番（本田和成君） 本田和成です。選定療養費の徴収について、保育所、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状把握とともに運用について検証を行い、その情報公開を求める意見書について賛成の立場で討論をいたします。私は、この選定療養費について何度か取上げさせていただきました。まず、この意見書を提案する——提出するに当たって、議員の皆さんにお声かけをさせていただいた、その経緯をちょっと共有させていただきたいなと思っております。実はこの県の運用に関して戸頭中学校のPTA保護者から、非常に心配な声が上がっているという状況です。学校生活で子どもたちに何かあったときに、様々な家庭の状況がある中で、徴収された場合は支払うことが難しい、厳しいという方もいるのではないかと。それから、逆に学校側がちゅうちょしてしまって、子どもたちに何かあったらどうするのかと。そういった声が、実はPTAの総会でも相当議論がされたと、そのように伺いました。そういったことから、戸頭中学校の校長先生と、あと教育委員会のほうに、この現状についてお伺いしております。教育委員会の指針で

は、首から上のけがは救急要請をするとされており。また、学校教育現場では、子どもたちの安全や命を最優先にちゅうちょすることなく救急要請をすることとしており、戸頭中学校の校長先生も、教職員にその旨を伝えて、万一、徴収された場合は、校長先生が責任を持って丁寧に保護者に説明をすると、そういうふうにおっしゃっておいりました。ただ、一度徴収がされるというようなことがあれば、教職員はちゅうちょしてしまう可能性があるということもおっしゃっておいりました。改めて、学校の現場で教職員の方々の判断の責任、これが重くのしかかっているなど私は受け止めておいります。県では検証を毎月実施することとしておいります。ただ、具体的にどのような救急要請で徴収されているのか。それから、徴収された例で、どこから救急要請がされたのか、これが今のところ情報が公開されておいりません。県は6月の末にも検証結果を出すとしておいります。県において、現場の現状実態把握、それから、その検証結果内容、具体的な徴収例に基づくガイドラインなどの情報公開と共有、これは現場の職員が救急要請を必要だと判断した場合に、ためらうことなく救急要請ができるために必要不可欠であり、救急要請をするかどうかの判断への基準を明確にできるものと考えます。また、この意見書は全会派の代表の方が提出者となっております。これ取手市議会として、一致してこれを提出するということについて、私は非常に意義があるものだと考えておいります。以上、賛成討論とさせていただきます。

○議長（岩澤 信君） 次に、反対討論の方。賛成討論の方。

根岸裕美子さん。

〔8番 根岸裕美子君登壇〕

○8番（根岸裕美子君） 根岸裕美子です。意見書案第3号、救急時の選定療養費徴収において、保育所、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状を把握するとともに運用について検証を行い、その情報を公開することを求める意見書について、賛成の立場で討論します。この意見書は、3月議会の総務文教常任委員会の議案外質疑に端を発し、緊急性があると判断し準備したものの、3月議会では提案がかなわず、改めて今回検討を提案されたものと受け止めています。私個人としては、日常的に人の命を預かっている状況にある保育士や学校の教職員、福祉事業所の介護職員などが救急搬送にちゅうちょするようなことにならないよう、そういった立場の方たちが救急搬送を要請した場合には、選定療養費を徴収しないとしていただきたいと考えています。今回の意見書はそこには触れておいりませんが、運用状況を注視し、検証を重ね、ガイドラインを作成、共有することで、適正な運用を求めていくことを明確にする必要があると考え、賛成をいたします。

○議長（岩澤 信君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。これで1回目の討論を終わります。

それでは2回目の討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 討論なしと認めます。以上で討論を終わります。

これから、意見書案第3号及び意見書案第4号を採決します。採決は採決システムを用

いて行います。

議員各位に申し上げます。お手元のタブレットが採決画面に切り替わったことを確認してください。

意見書案第3号、救急時の選定療養費徴収において、保育所、幼稚園、小中学校、高校、特別支援学校、福祉施設での現状を把握するとともに運用について検証を行い、その情報を公開することを求める意見書について、原案のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔表決システムのボタンを押す〕

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。全員賛成です。したがって、意見書案第3号は原案のとおり可決されました。

意見書案第4号、消費税5%への引下げ、インボイス制度の廃止を求める意見書について、原案のとおり決定することに賛成の方は賛成ボタンを、反対の方は反対ボタンを押してください。

〔表決システムのボタンを押す〕

○議長（岩澤 信君） 採決を確定いたします。賛成少数です。したがって、意見書案第4号は否決されました。

日程第6 選挙第 2号 茨城県南水道企業団議会の議員の補欠選挙について

○議長（岩澤 信君） 日程第6、選挙第2号、茨城県南水道企業団議会の議員の補欠選挙を行います。令和7年6月19日付、茨城県南水道企業団議会議長から、同企業団議会議員の選出の依頼文書を受領しました。この選挙は、石井めぐみさんが同企業団議会議員を辞職したことに伴う同企業団議会議員の補欠選挙です。

この欠員により選出する議員数は1名であります。

お諮りいたします。選挙の方法は、投票、指名推選のいずれの方法にしますか。

〔「投票」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） ただいま、投票との声がありました。したがって、選挙の方法は、地方自治法第118条第1項の規定により、投票により行います。なお、得票数が同数の場合は、くじ引により当選者を決定いたします。

議場の閉鎖を命じます。

〔議会議務局長 蛭原康友君が議場を閉鎖〕

○議長（岩澤 信君） ただいまの出席議員数は24名です。

次に、立会人を指名します。会議規則第31条第2項の規定によって、立会人に赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さんを指名します。なお、創和会代表の金澤克仁君が会議録署名議員に指名されているため、会派代表者の皆様の了解を得て、本日に限り、同会派の赤羽直一君を立会人に指名します。

投票用紙を配布させます。

〔議会議務局長補佐 小笠原一裕君及び議会議務局長補佐 永井宏幸君が

投票用紙を配布]

○議長（岩澤 信君） 配布漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 配布漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が投票箱を改める〕

○議長（岩澤 信君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、議席番号1番の議員から順番に前の方に続いて投票を願います。

〔順次投票〕

○議長（岩澤 信君） 投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（岩澤 信君） 投票漏れなしと認めます。投票を終了します。

議場の閉鎖を解きます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が議場を開鎖〕

○議長（岩澤 信君） それでは、開票を行います。赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さん、開票の立会いをお願いします。書記席の前までお願いします。

〔22番 赤羽直一君、11番 関川 翔君、19番 染谷和博君、24番 加増充子君、8番 根岸裕美子君立会いの下、開票〕

○議長（岩澤 信君） 選挙の結果を報告します。

投票総数 24 票

有効投票 24 票

無効投票なしです。

有効投票のうち、長塚美雪さん 19 票

本田和成君 5 票

以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は6票です。したがって、長塚美雪さんが茨城県南水道企業団議会議員に当選されました。

ただいま茨城県南水道企業団議会議員に当選された長塚美雪さんが議場におられます。会議規則第32条第2項の規定によって、当選の告知をします。長塚美雪さん、当選を承諾されますね。

○1番（長塚美雪君） はい。

○議長（岩澤 信君） 議長は承諾を確認しました。

休憩いたします。

午前 11 時 57 分休憩

午後 0 時 01 分開議

○議長（岩澤 信君） 再開します。

ただいまの休憩中、私から副議長に議長辞職願を提出いたしました。この後、私の議長辞職の件を追加日程とし、議題としていきたいと思っておりますので、地方自治法第106条第1項の規定により、石井副議長と議長席を交代し、議事進行をお願いいたします。

〔議長 岩澤 信君自席に着席し、副議長 石井めぐみ君議長席に着席〕

○副議長（石井めぐみ君） 議事進行を岩澤議長と交代いたしました。

先ほどの休憩中、議長、岩澤 信君から議長の辞職願が提出されました。

お諮りいたします。議長辞職の件を日程に追加し、追加日程第1として直ちに議題にしたいと思っております。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（石井めぐみ君） 御異議なしと認めます。よって、議長辞職の件を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定いたしました。

追加日程 議長辞職の件 第 1

○副議長（石井めぐみ君） 追加日程第1、議長辞職の件を議題といたします。

地方自治法第117条の規定により、岩澤 信君は除斥に該当し、議事に参与することができません。よって、議場外への退席を求めます。

〔13番 岩澤 信君退席〕

○副議長（石井めぐみ君） 提出されました辞職願を朗読させていただきます。

議会事務局次長、蛭原康友君。

〔議会事務局次長 蛭原康友君登壇〕

○議会事務局次長（蛭原康友君） 辞職願

このたび、一身上の都合により、議長を辞職したいので許可されるようお願いいたします。

令和7年6月19日

取手市議会副議長 石井めぐみ殿

取手市議会議長 岩澤 信

○副議長（石井めぐみ君） これより議長辞職の件を採決いたします。この採決は起立によって行います。

岩澤 信君の議長辞職を許可することに、賛成の議員は起立願います。

〔賛成者起立〕

○副議長（石井めぐみ君） 全員賛成です。よって、岩澤 信君の議長辞職を許可することに決定いたしました。

岩澤 信君の除斥は解除されましたので、入場を求めます。

〔13番 岩澤 信君着席〕

○副議長（石井めぐみ君） 岩澤 信君より発言を求められておりますので、この際、これを許します。

岩澤 信君。

[13番 岩澤 信君登壇]

○13番(岩澤 信君) 昨年の2月から第33代目の議長に就任させていただき、はや1年と4か月が経過いたしました。議長として至らぬ点多々あったと思いますが、議員の皆さん、そして執行部の皆様、そして何より議会事務局の方々に大変お世話になり、議長職を務めることができました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。本当に大変ありがとうございました。

○副議長(石井めぐみ君) 岩澤議員、議長職お疲れさまでした。ただいま議長が欠員となりました。

お諮りいたします。この際、議長志願者の所信表明及び議長の選挙についてをそれぞれ日程に追加したいと思っております。これに御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○副議長(石井めぐみ君) 異議なしと認めます。よって、議長志願者の所信表明及び議長の選挙についてをそれぞれ日程に追加することに決定しました。

追加日程 議長志願者の所信表明

第 2

○副議長(石井めぐみ君) 追加日程第2、議長志願者の所信表明を行います。この所信表明は議会基本条例第13条の規定により実施するもので、議会活動の方向性を明確化し、議会の透明性を確保することで、市民に分かりやすい議長の選出を行うことを目的とします。

議長職を志願する議員の発言をここで許したいと思っております。議長志願の所信表明を希望する委員は挙手願います。

[議長志願の所信表明希望者挙手]

○副議長(石井めぐみ君) それでは、山野井 隆君。

[18番 山野井 隆君登壇]

○18番(山野井 隆君) 山野井 隆でございます。私は、このたび取手市議会議長に立候補するために所信表明を行わせていただきます。まず初めに、これまで議会改革、開かれた議会の真剣に進めてこられた先輩議員の皆様方の御尽力に敬意を表し、その活動に御理解と御協力を賜った取手市民の皆様への感謝を申し上げます。中でも取手市議会は、早稲田大学マニフェスト研究所の議会改革度調査ランキングにおいて、全国で2年連続総合1位という評価をいただきました。そして現在でも先進事例の研修先として、当議会に多くの自治体から足を運んでいただいているところです。この成果は私たちの誇りであり、未来につなげていくべき宝だと思っております。その上で、私は議会をさらに進化させていきたいと考えています。開かれた議会になったからこそ、議会としての能力を問われる機会が増え、SNS等を通じて評価が広がるものと考えます。議会基本条例が掲げる議員の不断の研さんという理念を、さらに実践してまいります。そのために、議会全体で知見を深める環境を整え、議会の実力を高めていきます。法や制度、経済や社会の動きを学ぶ

ことは、現場の声を政策に換えるための土台です。外部の専門家を招いた講座、他の自治体の事例を学ぶ視察、テーマ別の勉強会など、実りある研修を積極的に取り入れていきます。議員一人一人が成長し続ける議会でありたい、その仕組みをつくってまいります。そして目指したいのは、開かれた議会の次のフェーズとして、困ったときに頼りになる頼もしい議会であります。議会は市民の代表であるだけでなく、市民の伴走者でもあるべきです。知見を高め、対話を大切にし、無駄なく情報を分かりやすく届ける、そんな議会を皆様と一緒につくっていきたくて考えております。さらなる未来志向と実行力のある取手市議会をつくるために、私にその先頭に立たせていただきますようお願いを申し上げまして、私の所信表明といたします。

○副議長（石井めぐみ君） ほかに議長志願の所信表明を希望する議員はおりませんか。
加増充子さん。

[24 番 加増充子君登壇]

○24 番（加増充子君） 加増充子です。議長辞職により、私、加増充子が取手市議会議長選に立候補するに当たりまして、所信を述べさせていただきます。2024年2月15日にも、議長選に当たりまして私の挨拶をさせていただきました。内容については、重複する内容でもありますのでよろしく願いいたします。取手市議会は、日本国憲法、地方自治法に基づき、議会の最高規範としての議会基本条例を定めています。その内容は、市民の意思を市政に反映させるため、公平かつ公正に議論を尽くし、真の地方自治の実現を目指すとあります。その上で議会は、自治体政策の立案、決定、執行、評価での論点を明確にし、市民に開かれた市政を目指す責務を有し、議会は議員の合議機関として多様な意見を的確に把握することに努め、市民との対話、自由闊達な討議を重ね、その審議経過を積極的に市民に公開することが求められます。しっかりと明記されています。これらの役割を果たす大前提は、何よりも民主的な議会運営を図るための努力を重ねることが必要です。改めて、真の議会改革を求め、推進するための提案を行います。1、多様な市民の意見の反映と議員平等の原則にのっとり、少数会派を尊重する。2、議会での審議権を拡大し、チェック機能を果たす議会運営をする。①本会議において、議案提出者の説明は会議規則を遵守し改善すること。②予算・決算、常任委員会など議員の発言時間の規制を緩和し、必要な審議時間を拡大・保障する。また、予算・決算審査を行う特別委員会は全員参加で行う。③議会基本条例第5条の理念に基づき、請願・陳情の取扱いを同様の扱いに戻す。3、各種審議会委員等、関係する委員の選出は、各会派議員に比例する配分に努め、一部事務組合議員には全議員に議席を保障する。4、議会だよりは、議会基本条例第5条、市民参加及び市民との連携、第20条、議会広報の充実に基づき、紙ベースの議会だより「ひびき」は復活、発行すること。以上、私は、政治的立場の違いはあっても、不偏不党をモットーに議会運営に努めてまいります。議会のチェック機能をしっかり果たし、地方自治の理念に基づき、市民生活の向上、地域経済の再生に努力する市政へ。議会としての政策的役割を発揮し、活発な議会運営に全力を尽くしてまいります。どうぞ皆さん、よろしく願いいたします。

○副議長（石井めぐみ君） ほかに議長志願の所信表明を希望する議員はおりませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（石井めぐみ君） なしと認めます。以上で、議長志願者の発言を終わりにいたします。

議員各位に申し上げます。ただいま行われました議長志願者の所信表明は、地方自治法で規定している議長選挙の方法を変更するものではありません。したがって、所信表明の有無にかかわらず、全議員が選挙人、被選挙人であることが前提となりますので、所信表明を行われなかった議員に対しての投票も有効となりますことをご承知願います。

追加日程 選挙第3号 議長の選挙 第 3

○副議長（石井めぐみ君） 追加日程第3、選挙第3号、議長の選挙を行います。

選挙の方法は、地方自治法第118条第1項の規定により、投票により行います。なお、投票数が同数の場合は、くじ引により当選者を決定いたします。

議場の閉鎖を命じます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が議場を閉鎖〕

○副議長（石井めぐみ君） ただいまの出席議員は24名であります。

次に、立会人を指名いたします。会議規則第31条第2項の規定によって、立会人に赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さんを指名いたします。投票用紙を配布させます。

〔議会事務局長補佐 小笠原一裕君及び議会事務局長補佐 永井宏幸君が
投票用紙を配布〕

○副議長（石井めぐみ君） 配布漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（石井めぐみ君） 配布漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が投票箱を改める〕

○副議長（石井めぐみ君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、議席番号1番の議員から順番に前の方に続いて投票願います。

〔順次投票〕

○副議長（石井めぐみ君） 投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（石井めぐみ君） 投票漏れなしと認めます。投票を終了いたします。

議場の閉鎖を解きます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が議場を開鎖〕

○副議長（石井めぐみ君） それでは、開票を行います。赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さん、開票の立会いをお願いいたします。書記席前ま

でお願いいたします。

[22 番 赤羽直一君、11 番 関川 翔君、19 番 染谷和博君、24 番 加増充子君、
8 番 根岸裕美子君立会の下、開票]

○副議長（石井めぐみ君） 選挙の結果を報告いたします。

投票総数 24 票

有効投票 24 票

有効投票のうち、山野井 隆君 21 票

加増充子さん 3 票

以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は 6 票です。したがって、山野井 隆君が議長に当選されました。ただいま議長に当選されました山野井 隆君が議長におられます。会議規則第 32 条第 2 項の規定によって当選の告知をいたします。

それでは、山野井 隆君、就任の挨拶をお願いいたします。

[18 番 山野井 隆君登壇]

○18 番（山野井 隆君） 山野井 隆でございます。皆様方の信任をいただきまして、議長に就任をいたしました。しっかりと、議会をよくしていくために全力で取り組んでまいりますので、御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。また執行部の方々に——市長、おかれましても、同様に御指導・御鞭撻、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○副議長（石井めぐみ君） 皆様方の御協力によりまして、無事に議長選挙まで議事進行をすることができました。心から御礼申し上げます。ありがとうございました。

山野井 隆議長、議長席にご着席願います。

[副議長 石井めぐみ君自席に着席し、議長 山野井 隆君議長席に着席]

○議長（山野井 隆君） 議長席に着席させていただきました。皆様の御協力、よろしくお願い申し上げます。

12 時 30 分まで休憩いたします。

午後 0 時 27 分休憩

午後 0 時 31 分開議

○議長（山野井 隆君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

ただいまの休憩中、副議長、石井めぐみさんから副議長の辞職願が提出されました。

お諮りいたします。副議長辞職の件を日程に追加し、追加日程第 4 として直ちに議題にしたいと思っております。これに御異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山野井 隆君） 御異議なしと認めます。よって、副議長辞職の件を日程に追加し、直ちに議題とすることに決定しました。

追加日程 副議長辞職の件

第 4

○議長（山野井 隆君） 追加日程第4、副議長辞職の件を議題といたします。

地方自治法第117条の規定により、石井めぐみさんは除斥に該当し、議事に参与することができません。よって、議場外への退席を求めます。

〔15番 石井めぐみ君退席〕

○議長（山野井 隆君） 提出されました辞職願を朗読させます。

議会事務局次長、蛭原康友君。

〔議会事務局次長 蛭原康友君登壇〕

○議会事務局次長（蛭原康友君） 辞職願

このたび、一身上の都合により、副議長を辞職したいので許可されるようお願い出ます。

令和7年6月19日

取手市議会議長 山野井 隆殿

取手市議会副議長 石井めぐみ

○議長（山野井 隆君） これより副議長辞職の件を採決いたします。この採決は起立によって行います。

石井めぐみさんの副議長辞職を許可することに、賛成の議員は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（山野井 隆君） 全員賛成です。よって、石井めぐみさんの副議長辞職を許可することに決定しました。

石井めぐみさんの除斥は解除されましたので、入場を求めます。

〔15番 石井めぐみ君着席〕

○議長（山野井 隆君） 石井めぐみさんより発言を求められておりますので、この際これを許可します。

石井めぐみさん。

〔15番 石井めぐみ君登壇〕

○15番（石井めぐみ君） お疲れさまです。取手市議会副議長の退任の御挨拶をさせていただきます。このたび、2024年3月より務めてまいりました取手市議会副議長の任期を、2025年6月19日をもって退任させていただいたことを御報告申し上げます。

在任中は、議員の皆様はじめ、議会事務局の皆様の多大なる御協力を賜り、心より感謝申し上げます。副議長としては、議長を支えながら議会全体の調整や円滑な運営に関わること、多岐にわたる役割を担わせていただきましたが、皆様のお力添えにより無事に務め上げることができました。任期中には、議会の活性化に向けた改革をはじめ、子育て世代を含む幅広い世代の皆様との意見交換会の開催、またインフラ整備や地域課題への対応など様々な取組に関わらせていただきました。この貴重な経験を糧に、今後も一議員として、市民の皆様とともに歩み、取手の未来をよりよくするために全力で取り組んでまいります。改めまして皆様にご心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

取手市議会議員、石井めぐみ。

○議長（山野井 隆君） 石井議員、副議長職お疲れさまでした。ただいま副議長が欠員

となりました。

お諮りいたします。この際、副議長志願者の所信表明及び副議長の選挙についてをそれぞれ日程に追加したいと思っております。これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山野井 隆君） 御異議なしと認めます。よって、副議長志願者の所信表明及び副議長の選挙についてをそれぞれ日程に追加することに決定しました。

追加日程 副議長志願者の所信表明

第 5

○議長（山野井 隆君） 追加日程第5、副議長志願者の所信表明を行います。この所信表明は、議会基本条例第13条の規定により実施するもので、議会活動の方向性を明確化し、議会の透明性を確保することで、市民に分かりやすい副議長の選出を行うことを目的とするものです。

副議長職を志願する議員の発言をここで許したいと思っております。副議長志願の所信表明を希望する議員は挙手願います。

〔副議長志願の所信表明希望者挙手〕

○議長（山野井 隆君） 小堤 修君。

〔12番 小堤 修君登壇〕

○12番（小堤 修君） 創和会、小堤 修でございます。副議長辞職に伴い、私、小堤修は新たな副議長の職を志すものです。私は、副議長として議長を支えていくのはもちろんのこと、議長と皆様間に立ち、皆様の声をまとめ、議会が一丸となって前進できるよう努めてまいり所存です。そして、行政側とは、立法の立場から、市長提出議案をはじめ、様々な案件等について皆様が常に慎重審議できるような環境を整えてまいります。時には大いに議論をすることも必要であり、私は議長の英断を仰ぎながら、議長の補佐役に徹し、議会と行政が同じ方向を向いて、市民の豊かな生活向上のために、取手市の発展のために、そして住み続けるほど好きになるまちづくりのために、浅学非才の身ではありますが、微力ながら全身全霊、粉骨砕身の覚悟で副議長の職を務めていく所存でございます。どうぞ皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（山野井 隆君） ほかに副議長志願の所信表明を希望する議員はおりませんか。遠山智恵子さん。

〔23番 遠山智恵子君登壇〕

○23番（遠山智恵子君） 日本共産党の遠山智恵子です。ということなんですけれども、副議長になったから——なれば、日本共産党会派云々よりは、議会一つ——議会愛を基に、そして議会一つをモットーに進めていきたいと思っております。先ほど議長職の選挙を行いました。もう過去は振り返らず前に進みたいと思っております。そういう意味では、新しくなりました山野井議長、おめでとうございます。加増議員も同じだったと思うんですけど、山野井議長の所信表明も大いに納得するもの多々ありました。そういう意味では、私も副議長

職、実は今回、当選されれば2度目になります。議員になって初めての選挙のときに、実は藤代町議会で副議長という職が偶然にも回ってきたという経緯があります。随分、時代は変わってきました。議会は一つを目指して、山野井議長を助けながら、そして市民の声が生きて、そして取手市議会のできてます基本条例を大いに生かして、活発な議会運営関係に頑張っていきたいと思っていますので、この際、間違っても、遠山智恵子、よろしくをお願いします。

〔笑う者あり〕

○23番（遠山智恵子君） 以上です。

○議長（山野井 隆君） ほかに副議長志願の所信表明を希望する議員はおりませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山野井 隆君） なしと認めます。以上で、副議長志願者の発言を終わります。

議員各位に申し上げます。ただいま行いました副議長志願者の所信表明についても、議長選挙と同様に、所信表明を行わなかった議員に対しての投票も有効となりますことをご承知願います。

追加日程 選挙第4号 副議長の選挙 第 6

○議長（山野井 隆君） 追加日程第6、選挙第4号、副議長の選挙を行います。

選挙の方法は、地方自治法第118条第1項の規定により、投票により行います。なお、得票数が同数の場合は、くじ引により当選者を決定いたします。

議場の閉鎖を命じます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が議場を閉鎖〕

○議長（山野井 隆君） ただいまの出席議員は24名であります。

次に、立会人を指名します。会議規則第31条第2項の規定によって、立会人に、赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さんを指名します。

投票用紙を配布させます。

〔議会事務局長補佐 小笠原一裕君及び議会事務局長補佐 永井宏幸君が
投票用紙を配布〕

○議長（山野井 隆君） 配布漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山野井 隆君） 配布漏れなしと認めます。

投票箱を改めさせます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が投票箱を改める〕

○議長（山野井 隆君） 異状なしと認めます。

念のため申し上げます。投票は単記無記名であります。投票用紙に被選挙人の氏名を記載の上、議席番号1番の議員から順番に前の方に続いて投票願います。

〔順次投票〕

○議長（山野井 隆君） 投票漏れはありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山野井 隆君） 投票漏れなしと認めます。投票を終了します。

議場の閉鎖を解きます。

〔議会事務局次長 蛭原康友君が議場を開鎖〕

○議長（山野井 隆君） それでは、開票を行います。

赤羽直一君、関川 翔君、染谷和博君、加増充子さん、根岸裕美子さん、開票の立会いをお願いします。書記席前までお願いします。

〔22 番 赤羽直一君、11 番 関川 翔君、19 番 染谷和博君、24 番 加増充子君、
8 番 根岸裕美子君立会の下、開票〕

○議長（山野井 隆君） 選挙の結果を報告します。

投票総数 24 票

有効投票 24 票

無効投票なしです。

有効投票のうち、小堤 修君 21 票

遠山智恵子さん 3 票

以上のとおりです。

この選挙の法定得票数は6票です。したがって、小堤 修君が副議長に当選されました。ただいま副議長に当選された小堤 修君が議場におられます。会議規則第32条第2項の規定によって当選の告知をします。

それでは小堤 修君、就任の挨拶をお願いします。

〔12 番 小堤 修君登壇〕

○12 番（小堤 修君） ただいま選挙により皆様から御推挙いただき、新たなる副議長の職に就くことになりました小堤 修でございます。ありがとうございます。先ほどの所信表明でも申しましたように、私は副議長として議長の補佐役に徹し、そして、この議会が風通しがよく、そして議会運営ができるように、一生懸命頑張ってまいりたいと思います。どうぞ皆様の御支援、御協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。また、中村市長、石塚教育長をはじめ執行部の皆様にも、今後ともいろいろと御指導、御鞭撻をいただくこととなりますのでどうぞよろしくお願いいたします。あと議会事務局の皆さんにも大変お世話になると思います。よろしくお願いいたします。以上です。皆様よろしくお願いいたします。

○議長（山野井 隆君） 小堤副議長、よろしくお願い致します。

以上で、今定例会に付議されました日程は全て終了しました。

これで令和7年第2回取手市議会定例会を閉会いたします。

午後 0 時 51 分散会及び閉会

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

議 長 _____

議 長 _____

副 議 長 _____

署名議員 _____

署名議員 _____

速報版 ● 本校正